

美術館

Museum
Composting
Project

プレスリリース
PRESS RELEASE

堆肥化計画

2023

事業概要

本事業は、青森県立美術館が地域と協働することを通じて、地域の魅力を様々な発掘・発信するアートプロジェクトです。そんな美術館によるアート実践を、土壌環境をととのえ作物の成長を支える「堆肥」になぞらえ、プロジェクト名を「美術館堆肥化計画」としました。県内地域で美術館 PR 展示を行う「旅するケンピ」、アーティストらによる地域に取材した作品展示やワークショップを行う「耕すケンピ」、年度末の県立美術館での「成果展示」で構成されます。2021 年は津軽地域（五所川原市、中泊町）、2022 年は三八上北地域（三沢市、六ヶ所村、新郷村）で実施し、今年度下北半島域での開催をもって完結となります。

美術館堆肥化計画 2023

会 期＝2023 年 9 月 23 日（土祝）～11 月 3 日（金祝）

会期中無休・観覧無料（全会場ともに）

- － (1) 美術館 PR&事業ビジター展示「旅するケンピ」
会場＝マエダ本店（むつ市） 営業時間＝9:00～21:00（ただし食料品以外は 10:00～20:00）
- － (2) アート展示等「耕すケンピ 下北編：脈動する」
 - 参加作家 アート・ユーザー・カンファレンス（アートコレクティブ）
会 場＝大間鉄道メモリアルロードとその周辺（風間浦村）
 - 参加作家 小田香（フィルムメーカー／アーティスト）
会 場＝①釜臥山展望台（むつ市） ②尻屋崎ビジターハウス（東通村）
営業時間＝①8:30～21:30 ②9:00～17:00
 - 参加作家 イタズラ・ヌーマン（縫いもの集団）
会 場＝①マエダ本店各所 ②古民家カネシチ+（佐井村）
営業時間＝①9:00～21:00（ただし食料品以外は 10:00～20:00） ②9:00～19:00

【予告】2021 年から県内三地域で開催された本事業の成果を紹介する総合成果展示（仮称）を開催！

2024 年 2 月 10 日（土）～6 月 30 日（日）予定 ※コレクション展内で開催

会場＝青森県立美術館 開館時間＝9:30～17:00（入館は 16:30 まで） 休館日＝毎月第 2、第 4 月曜日を予定

□主 催：青森県立美術館
□企画担当：奥脇嵩大（青森県立美術館学芸主査）

青森県立美術館 
AOMORI MUSEUM OF ART

事業展開について

2023 年度は下北半島で大規模に開催

本事業は下北半島域に出張し、地域の「自然」や「生活文化」を取り上げ行います。下北半島域に県立美術館が出張するのは開館以降初であり、また半島域ではかつてない規模で行われるアートプロジェクトです。太平洋～津軽海峡～陸奥湾という3つの海に囲まれた「まさかり」「王冠」のような形が特徴的な下北半島には、1億5000万年前からの日本列島形成の歴史が刻まれています。海と大地の多様なあり方が混ざりあい、渦まきのようなこの地は、そこに住まう人や生きものたちの物心両面に影響し続け、恐山をはじめとした独特の文化や生を育んできました。それらには「未開の生活」として、中央からの偏見にみちた視線にさらされ消費される一面がありました。しかし、そんな視線をも養分として、この地に集い・生きることを意味をアートでもってときほぐし、形にしなおすことはできないか。そうすることで「ここで・あるがまま（自然）に・生きる」感覚を肯定し、下北半島に息づく全てのものたちの、やがてくる生を予祝（※）すること。そこに「美術館堆肥化計画 2023」の目的があります。

下北半島の日常がアートに変わる／堆肥化する美術館を求めて

むつ市のマエダ本店を会場にした美術館プロモーション&事業ビジター展示「旅するケンビ」、アーティストらによる下北半島域の様々な場所を会場とした現代アート、写真や描画、手芸といった作品の展示やワークショップを展開する「耕すケンビ 下北編：脈動する」といったアート実践。それらを通して下北半島の日常を変容させ、美術館を、人が生きることをその足元から更新させる経験の枠組みへと堆肥化させようとする「美術館堆肥化計画 2023」にご期待ください。

※あらかじめ期待する結果を事前に実演することで、その期待が叶うという考えにもとづき行われ、いわゆる「前祝い」の行事。豊作を願う農耕儀礼として行われることが多く、下北半島では東通村大利に事例がある。

内容紹介

美術館 PR&事業ビジター展示「旅するケンビ」

事業を体験されたい方はまずこちらへ。むつ市・マエダ本店1階のパブリックスペースで事業参加アーティストの下北半島域各エリアでの展開を紹介する展示を行うほか、2階に会場を設けて県立美術館（ケンビ）の建築の一部であるネオンサインや制服、コレクション作品に関する映像や写真を紹介します。



左) cap.1=マエダ本店外観 右) cap.2=五所川原のショッピングモール ELM で開催した「旅するケンビ」の例（2021）

アート展示等「耕すケンビ 下北編：脈動する」

参加アーティスト3組が下北半島域を舞台に作品の制作や展示、ワークショップを開催します。地域に息づく自然や生活文化をヒントに、流動化と混迷の一途をたどる今日の世界を力強く生きなおす場（ミュージアム）を地域に投企（プロジェクト）することを試みます。

参加作家① アート・ユーザー・カンファレンス (An Art User Conference)

ユーザーの声、橋本聡、松井勝正、木原進を中心に運営されるアートコレクティブ。首都圏を拠点とし、2014年設立。作者や鑑賞者、批評家、キュレーターなどと異なる「user(使い手)」という立場から、既存の芸術概念の問い直しに基づくネオ・コンセプチュアルな作品やアートプロジェクトを展開。主なプロジェクトや展覧会として、アースワークの先駆者である故 R. スミッソンを「作者」として「架空に使用」し作品を展開した「宮城でのアース・プロジェクト—Robert Smithson without Robert Smithson」(風の沢ミュージアム、宮城、2015)。過去と未来の事物を芸術資源として同等に使用する「未来芸術家列伝」。東京都八王子の住宅街に面した森で新たな公共圏＝ミュージアムを構想、実践するべく開催されたジェネラル・ミュージアムによるコレクション展「コラージュ、カムフラージュ」+企画展「dis/cover」(2022)等。「美術館堆肥化計画」には2021年から継続して参加。



〈下北半島域での作品展開〉

2021年2022年に引き続き、世界全体をミュージアムとして捉えるプロジェクト「ジェネラル・ミュージアム」の一環として「ジェネラル・ミュージアム | 墓」を展開します。むつ市～風間浦村～大間町にまたがる路線として構想され、戦中の工事中断以降、現在まで遺構が残る「大間鉄道」。その遺構を過去の建造物としてだけでなく、過去における未来(未完成)を宿す遺構として注目し、モニュメント(墓)のあり方を問い直します。具体的には風間浦村の大間鉄道メモリアルロードとその周辺に画像生成AIを用いた抽象的なモニュメントのイメージに「Under Construction 工事中」などの言葉を添えた複数種類の看板を設営します。画像を生成させるためのAIへのプログラムをブラックボックスにし抽象的なイメージを生成させることに加え、さらに複数のイメージを生成させ並列させることで、歴史や地域への解釈を単一的に象徴させるモニュメントではなく、永続的な思索と想像へと投げかけられた多様な「未完成」の形を提示していきます。 <https://generalmuseum.wixsite.com/abcd>



cap.3=風間浦村に設置する予定で作成中の、「ジェネラル・ミュージアム | 墓」看板イメージ

参加作家② 小田 香 (おだ・かおり)

イメージと音を介して「人の記憶のありか」「人間とは何か」を探求するフィルムメーカー/アーティスト。1987年大阪府生まれ・拠点。米国ホリズ大学教養学部映画コース修了。2016年映画監督タル・ベーラ指揮による film. factory 修了(第1期生)。2015年ボスニアの炭鉱を主題とした映画『鉱 ARAGANE』(2015)で山形国際ドキュメンタリー映画祭・アジア千波万波部門特別賞受賞。2019年ユカタン半島の洞窟を撮影した映画『セノーテ』で2020年大島渚賞受賞、芸術選奨新人賞受賞。映画制作と並行して、カメラを向けた土地や人とのつながりを守るための絵画をはじめとした作品制作を行う。主な展覧会に「特集 小田香 光をうつして—映画と絵画」(まなびあテラス、フォーラム東根 山形 2021)、「第14回恵比寿映像祭: スペクタクル後 AFTER THE SPECTACLE」(東京都写真美術館 2022)等「美術館堆肥化計画」には2021年から継続して参加。。 <https://www.fieldrain.net/>



〈下北半島域での作品展開〉

下北半島の在来馬である寒立馬を主題とした作品制作をとおして、「他者と生きること」を私たちが直接経験しなおすための場所をつくります。具体的には寒立馬の放牧場所にほど近い尻屋崎公園ビジターハウスで小田が撮影した尻屋崎灯台付近の今の風景写真を展示します。また釜臥山展望台では尻屋崎を遠望できるガラス窓に馬の絵を描き展示し、既存のスピーカーシステムを用いて寒立馬の足音を素材とした音の作品を放送します(各日9:00~17:00)。そうした小田の取り組みは、私たちが尻屋崎で300年続く寒立馬の生を尻屋崎という近くから見ること/釜臥山という遠くから想像することの間から、他者とともに生きるための「距離」を手さぐる方法としてのイメージ実践といえます。



cap.4、5=撮影：小田香（2023）

参加作家③ イタズラ・ヌーマン (Itazura NUMAN)

東京を拠点に、「みんなで集まって、話しながら手を動かせる場所があったらいいなというアイデア」をもとに2017年ごろから活動する縫いもの集団。アナキズムとDIYを主なテーマに書籍やzine、グッズを扱うショップ「イレギュラー・リズム・アサイラム」(新宿)に毎週集まり、縫いものをしたりしなかったりしながら活動を継続中。世界のどこかの国々で縫製された安価な衣服が大量に消費廃棄される現状への疑問をもとに、アイデアや方法を集まった人と共有しながら廃棄される寸前の布や服をリメイクしながらファッションを楽しむ活動にも取り組む。主な展示やイベントに「+Itazura NUMAN展」(IRREGULAR RHYTHM ASYLUM, 2018)、「Itazura NUMAN workshop in Studio Parlor !!!」(Studio Parlor, 宮城, 2022)等。
<https://www.instagram.com/itazuranuman/?hl=ja>



cap.6、7=下北の手芸サークルや作家たちと出会うヌーマン（2023）

〈下北半島域での作品展開〉

Itazura NUMANによる展示とワークショップを、むつ市と佐井村で展開します。具体的には役場や地域ゆかりの手芸サークルや作家らとの協働により「タンスの肥やし」になっている古着や布類を収集、それらをリメイクしてできた作品をマエダ本店やカネシチ+既存の要素と組み合わせる形で展示し、ワークショップを通じて地域に公開・流通させる活動「メダルをサムへ」を展開します。人と人、人と地域社会の関係を結びなおす術や物語を提示しようとするヌーマンの今回の活動は、地域に対する「おせっかい (meddlesome)」じみたものにみえるかもしれませんが。しかしそんな制作と生活をはみ出し、まぜこぜに縫いあわせようとするパワフルかつ、それでいてひそやかな本活動は、下北半島に血を通わせ、ここで「ともに・生きること」を予祝する場につながることでしょう。



cap.8=Itazura NUMANにより制作中の作品

総的成果展示（仮称）

2023年度コレクション展第4期～2024年度コレクション展第1期の中で開催。秋に地域会場で展開されたアーティストによる制作作品や現地で出会った作品や資料、ワークショップの内容などを組み合わせて展

示すほか、2021年から続く「美術館堆肥化計画」の今日に至る成果を紹介することで、地域にひらかれ、様々な連なりの中で生きることが形になった場所＝堆肥となった県立美術館の姿を展示します。

関連企画

ワークショップ①「べろっと☆NUMAN（佐井村編）ーマイバッグをつくろう、かざろう」

参加者の持ち込んだバッグをカスタマイズして飾ったり、長福寺様や佐井村の手芸作家・川岸延子さんから事前に頂いた布を材料として参加者がバッグを新しくつくったりするワークショップを開催。星型や十字、王冠など地域ゆかりのモチーフを象ったパーツなども予め用意し、それらを組み合わせるなどしてカスタマイズを行う。

開催日時：2023年9月23日（金祝）13：30～16：30 予定

会場：長福寺本堂 料金無料・申込不要

ワークショップ②「べろっと☆NUMAN（むつ市編）ータンスの肥やしでリメイクしよう」

クラフトフェア「じょいふるくらぶBIG」にヌーマンが出店する形式で開催。会場にワークショップテーブルを設置し、むつ市内で事前に収集しておいた布を材料として参加者が持ち帰ることのできる手芸作品をつくるほか、クラフトフェアの他の出店者との合同により作品制作を行う時間を設ける。

開催日時：2023年9月24日（土）10：00～16：00 予定

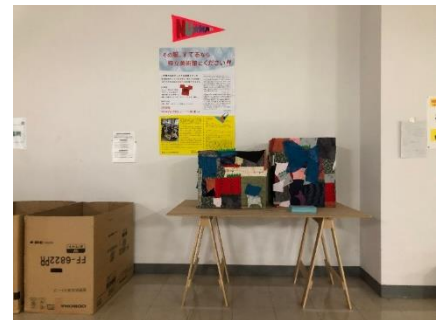
会場：下北文化会館1階展示ホール 参加無料・申込不要

その他「むつ市役所での布回収ボックスの設置」

むつ市役所環境政策課様のご協力のもと廃棄布の回収ボックスを設置中。

設置時期：7月25日（火）～11月8日（水）予定

設置場所：衣類等回収エリア



各会場への交通案内

マエダ本店

むつ市小川町2-4-8 / Tel. 0175-22-8333

●JR大湊線「下北駅」から車で約10分

釜臥山展望台

むつ市大平字荒川山2

●JR大湊線「下北駅」から車で約40分

尻屋崎ビジターハウス

下北郡東通村尻屋ケシ子山37-20

●JR大湊線「下北駅」から車で約40分

●むつ市内～尻屋をつなぐ予約型タクシーあり（片道1400円程度）。

12:00（14:00）「旧むつバスターミナル」周辺発→12:40（14:40）「尻屋」周辺着

13:00（15:00）「尻屋」周辺発→13:40（15:40）「旧むつバスターミナル」周辺着

※乗車希望の方は乗車予定の前日15時までに電話予約（株式会社尻屋観光 0175-28-5554）

大間鉄道メモリアルロード

下北郡風間浦村下風呂字下風呂41 / Tel. 0175-35-2111 ※風間浦村産業建設課

●JR大湊線「下北駅」から車で約50分

●下北交通バス【行き】「下北駅」バス停から佐井車庫行き「下風呂温泉」下車
11:15、12:55（土日祝のみ）、14:30「下北駅」発→12:30、14:00（土日祝のみ）、15:35「下風呂温泉」着
下北交通バス【帰り】「下風呂温泉」バス停から下北行き「下北駅」下車
08:32、10:20、12:37、16:47「下風呂温泉」発→09:45、11:30、13:45、17:55「下北駅」着
※車は近隣の「下風呂温泉 海峡の湯」にお留めください。なお混雑状況により他の駐車スペースをご案内する場合があります。

「下風呂温泉 海峡の湯」（下北郡風間浦村下風呂字下風呂 71-1）

営業時間＝【10/31 まで】7:00-20:30 【11/1 から】8:00-20:30 定休日＝毎月第2・4火曜日

古民家カネシチ+

下北郡佐井村佐井字大佐井 40 / Tel. 0175-38-4108 ※株式会社コメイチ

●JR 大湊線「下北駅」から車で約 75 分

●下北交通バス【行き】「下北駅」バス停から佐井車庫行き「佐井」下車（徒歩約 1 分）

11:15、12:55（土日祝のみ）、14:30「下北駅」発→13:33、15:03（土日祝のみ）、16:38「佐井」着

下北交通バス【帰り】「佐井村役場前」バス停から下北行き「下北駅」下車

07:28、09:18、11:33、15:43「佐井」発→09:45、11:30、13:45、17:55「下北駅」着

作家たちの今後の下北半島域滞在スケジュール

アート・ユーザー・カンファレンス

▶作家の案内により大間鉄道メモリアルロードでの作品展開を紹介するプレスツアーを開催します。

日時：9月23日（土）11:00～11:30頃

開始時間までに「下風呂温泉 海峡の湯」前にご集合ください。 ※雨天の場合は2階展示ホール集合
小田 香

▶9月22日（金）尻屋崎ビジターハウスで展示制作／23日（土）～25日（月）釜臥山展望台で展示制作
イタズラ・ヌーマン

▶9月21日（木）・22日（金）マエダ本店で展示制作

9月23日（土）ワークショップ in 長福寺、9月24日（日）ワークショップ in 下北文化会館

※各作家滞在時の時間詳細については美術館担当までお問い合わせください。

画像のご提供

本リリースに掲載した画像をデータで提供いたします。なお cap.1 から 8 までの画像については使用される際に、キャプションも添えていただけますようお願いいたします。

希望される画像、媒体名、御社名、ご担当者、ご連絡先をお書き添えの上、E-mail でご連絡ください。

(bijutsukan@pref.aomori.lg.jp)

（プレスイメージ貸し出し条件）

- 1 画像は、本展紹介以外の目的で使用しないでください。
- 2 画像データを第三者に渡すことはできません。使用后、データは消去してください。
- 3 作品画像は全図で使用してください。部分画像やトリミング、作品に文字を重ねることはできません。
- 4 画像を掲載される際には、本リリース内各画像下に記載されたクレジットをご記入ください。
- 5 掲載、放送の際には事前確認のため、ゲラ、掲載誌（紙）または映像のご提供をお願いいたします。
- 6 掲載紙は、広報担当あてに一部ご寄贈ください。web サイトの場合は、掲載時にお知らせください。

青森県立美術館 〒038-0021 青森市安田近野 185

TEL 017-783-3000 FAX 017-783-5244 MAIL bijutsukan@pref.aomori.lg.jp

広報担当：今 真弓（こん・まゆみ） 学芸担当：奥脇嵩大（おくわき・たかひろ）